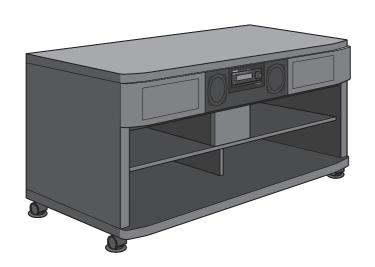
TOSHIBA
Leading Innovation >>>

東芝シアターラックシステム

取扱説明書

形 名

TY-TVR1000HD

日本国内専用
Use only in Japan

- このたびはシアターラックシステムをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
- この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。
- お読みになったあとは、必要なときすぐに取り出せるように大切に保管してください。

保証書付

保証書はこの取扱説明書の85ページについていますので、お買い上げ日、販売店名などの記入をお確かめください。

- テレビのリモコン１つで、レグザリンク対応テレビとのシアターラックシステムを実現（レグザリンク）。
- 3.1chスピーカーにより、サラウンドの効いたホームシアターを実現。
- センタースピーカーにより明瞭なセリフを再現し、感動的な映画再生を演出。
- RIドックにのせたiPodを操作できるなど、RI機能のあるオンキヨー製品と接続可能。

もくじ

ページ

はじめに

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の説明用画面は、実際の画面と字体や形状が異なっていたり、一部を省略している場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

連絡先

東芝エルイートレーディングサポートセンター

0120-28-0488

安全上のご注意 必ずお守りください

● 製品の本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明

"取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定されること"を示します。

"取扱いを誤った場合、使用者が軽傷(*2)を負うことが想定されるか、または物的損害(*3)の発生が想定されること"を示します。

*1：重傷とは失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

⃠ は、禁止（してはいけないこと）を示します。
具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

● は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。
具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

△ は、注意を示します。
具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

■ 免責事項について

● 地震・雷・風水害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

● 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断、記憶内容の変化・消失など）に関して、当社は一切責任を負いません。

● 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

● 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

● 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（ＣＤレンタル料等）に関して当社は一切責任を負いません。
大事な録音・録画をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

（つづく）

安全上のご注意（つづき）

⚠警告

使用上

指示

異常・故障時にはすぐに使用を中止する

・火災・感電・けがの原因になります。
・すぐに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店または東芝エルイートレーディングサポートセンターに点検・修理を依頼してください。

＜異常・故障例＞
● 発煙、変なにおいや音がする
● 本機の内部に水や異物が入った
● 倒したり、落としたりして破損した
● 電源コードが痛んだり、電源プラグが発熱した

禁止

分解・改造・修理しない　カバーもはずさない

・火災、感電、故障、けがの原因になります。

禁止

通風孔をふさがない

・火災・やけどの原因になります。

＜事例＞
● 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
●（本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
● 逆さまや横倒しにして使用しない
● 布やテーブルクロスをかけない
● ふとんの上に置いて使用しない
● 通風孔が完全にふさがれてしまうようなサイズの製品を置かない

禁止

本機の上や近くに、花びん、コップなどの液体の入った容器やクリップなどの金属類を置かない

・液体がこぼれたり、金属類が落ちて内部に入った場合、火災・感電・故障の原因になります。

禁止

長時間音がひずんだ状態で使わない

・アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

・感電の原因になります。

指示

乾電池を取り扱うときは、つぎのことを守る

- 指定以外の電池は使用しない
- 極性表示、＋と－ を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れない
- 乾電池に表示されている「使用推奨期限」を過ぎたり、使い切った乾電池は入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない
- 長時間使用しないときは、本体から乾電池を取り出す
- 水にぬらしたり、ぬれた手で触れない
- 使用済みの電池は接点部分にテープを貼って絶縁し、一般廃棄物として各自治体の指示にしたがって廃棄する
- 電池の漏液に触れたときは、水でよく洗い流す

・発熱・液もれ・破裂などにより、やけど・けがの原因になります。

電源プラグ・電源コード

禁止

コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、熱器具に近づけたり、物をのせたり、挟み込んだり、加工したりしない

・コードが破損し、火災・感電の原因になります。

指示

電源プラグは定期的に掃除する

・電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因になります。
・電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

指示

表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

・本機を使用できるのは日本国内のみです。
・表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

・感電の原因になります。

指示

電源プラグは根元まで確実に差し込む

・感電・ショート・発火の原因になります。

指示

長時間（1ヵ月以上）使用しない場合やお手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く

・火災・感電の原因になります。

指示

付属の電源コードを使用する　また、付属の電源コードは本機以外の機器には使用しない

・事故・故障の原因になります。

（つづく）

安全上のご注意（つづき）

電源プラグ・電源コード

指 示

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
- コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁 止

電源プラグを電源コンセントに接続したまま、本機の電源入力端子から電源コードを抜いたり、つないだりしない
- 感電の原因になります。

⚠注 意

使用上

禁 止

ガラスに傷をつけたり、衝撃を与えない
- 割れてけがの原因になります。

指 示

音量に注意する
- 突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因になります。

キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない
- 磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

接触禁止

本機の通風孔付近を触らない
- やけどの原因になります。電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは、通風孔付近は放熱のため高温になります。

指 示

定期的に機器内部の掃除を行う
- 本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災・故障の原因になります。
- 内部清掃については、販売店にご相談ください。

禁 止

ラックの上に乗ったり、座ったりしない
- 落ちたりしてケガの原因になります。
- 特に小さなお子様にはご注意ください。

接続・設置

禁 止

コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、熱器具に近づけたり、物をのせたり、挟み込んだり、加工したりしない
- コードが破損し、火災・感電の原因になります。

⚠注意

接続・設置

本機は非常に重いので、組み立ては必ず2人以上で行う

・不十分な組み立て方をすると、強度が保てず、機器が倒れたりして故障やけがの原因になります。

本機の天板に60kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因になります。また、本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。

テレビを設置する場合、転倒防止を行う

・転倒してけがの原因になります。

配線コードに気をつける

・配線された位置によっては、つまずいたり、引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因になります。

移動時

移動時は電源プラグや接続コードをはずす

・コードが傷つき火災・感電の原因になります。

移動させる場合は、指定された場所を持ち、ゆっくり動かす

・落下や転倒して、けがの原因になります。
・収納している機器をすべて取り出して移動させてください。

本機の上にものを乗せたまま移動しない

・落下や転倒して、けがの原因になります。

（つづく）

安全上のご注意（つづき）

テレビの設置について

禁止

天板・棚板・底板には指定した質量異常の機器は設置しない

・質量を越えて長期間使用されますと破損してけがの原因になります。

・天板60kg　棚板20kg　底板20kg

設置作業は２人以上で行なう

・腰をいためたりけがの原因になります。

・指詰めにも注意してください。

禁止

高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所、本機よりも小さな物の上には置かない

・落下したり転倒してけがや機器の故障の原因になります。

1. ご使用になるテレビを、本機の天板の中央に設置してください。
2. テレビの設置する位置を調整する際は、テレビを持ち上げて行ってください。引きずると天板を傷つけることがあります。

テレビの底面や薄型テレビの台座が、天板よりはみ出したり、片寄った載せかたをしないようにしてください。倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

テレビの転倒防止処置について

地震やお子様がよじ登ったりして転倒しけがをすることがあります。

転倒防止バンドでテレビとラックを固定してください。

移動するときのご注意

本機を移動するときは、収納している機器をすべて取り出してください。

必ず２人以上で下図の矢印部に手をかけて、持ち上げて移動してください。

ガラス棚や底板は固定されていませんので、持たないでください。

移動は持ち上げて行ってください。引きずると床に傷がつく恐れがあります。

サランネットに大きな力を加えると、サランネットが壊れることがあります。

お手入れについて

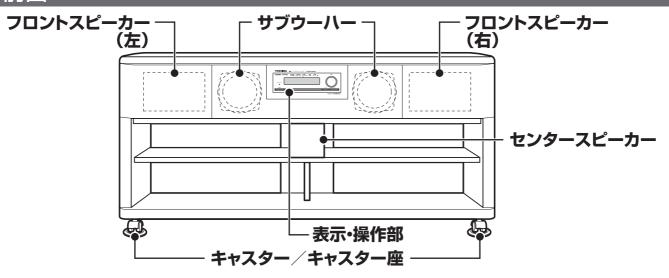
製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。

化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

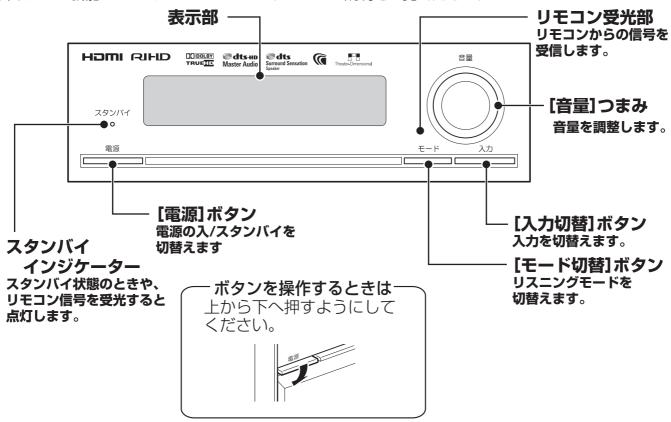
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

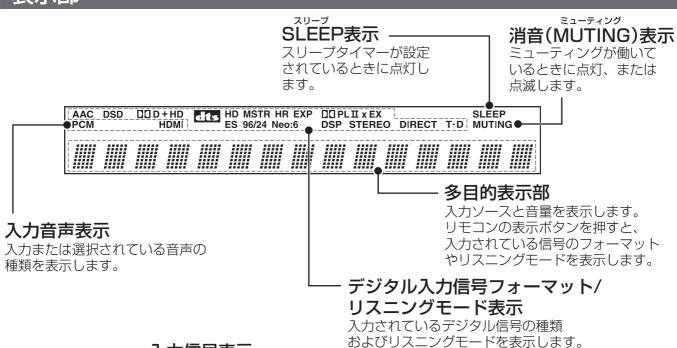
各部のなまえ

本体

前面

操作部

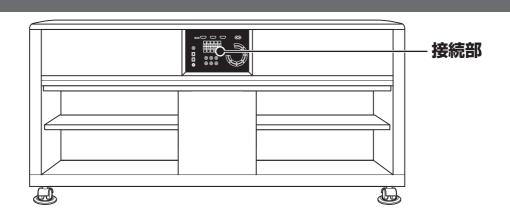
各ボタンの機能については、XXページのリモコンの説明をご覧ください。

（つづく）

各部のなまえ（つづき）

表示部

入力信号表示

表示	入力信号
PCM	PCM
D	Dolby Digital
dts	DTS
AAC	AAC
D+	Dolby Digital Plus
HD	Dolby TrueHD
dts EXP	DTS Express Audio
dts HD HR	DTS-HD High Resolution Audio
dts HD MSTR	DTS-HD Master Audio
DSD	Direct Stream Digital
T-D	Theater-Dimensional

背面

接続部

HDMI入力端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。

同軸入力（COAXIAL)端子
デジタル信号の入力端子です。
市販の同軸デジタルケーブルを使用してデジタル再生機器を接続します。

ＨＤＭＩ出力端子
本機からデジタル映像信号をテレビなどに出力する端子です。設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

電源AC100V入力端子
付属の電源コードを接続します。

RI リモートコントロール端子
RI端子付製品と接続し、連動させるための端子です。
RIケーブルの接続抱くではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください

サラウンドバック端子
左右サラウンドバックスピーカーをパワーアンプなどを経由して、接続する端子です。

放熱用ファン
本体内部の温度が上昇したときに、ファンが回ります。

外部入力端子
オーディオ用ピンコードでビデオデッキなどの外部（ＡＵＸ）出力（アナログ）端子と接続します。

光デジタル入力端子
デジタル音声の入力端子です。
付属の光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器を接続します。

スピーカー端子
左右サラウンドスピーカーを接続する端子です。
左右フロントスピーカーおよびセンタースピーカーとは、すでに接続してあります。

（つづく）

各部のなまえ（つづき）

リモコン

電源ボタン
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

設定ボタン
押すと、各種設定モードに入ります。また、3秒以上長押しして、デジタル入力を固定することもできます。

チャンネル選択ボタン
レベルを設定するスピーカーを選びます。

▲/▼/◀/▶/決定ボタン
各種設定をしているときに、▲/▼/◀/▶ボタンで項目や数値を選びます。中央の決定ボタンを押すと、選んだ内容を確定します。

音量▲/▼ボタン
音量を調整します。

リスニングモード◀/▶ボタン
リスニングモードを選びます。

入力切換◀/▶ボタン
入力を切り換えます。

スリープボタン
スリープタイマーを設定します。

明るさボタン
表示部の明るさを切り換えます。

テストトーンボタン
各スピーカーからテスト音が出力されます。

表示ボタン
表示部の表示を切り換えます。入力信号の種類やリスニングモードを確認することができます。

ナイトモードボタン
小音量で楽しみたいときに、ダイナミックレンジを切り換えます。

消音ボタン
音量を一時的に小さくします。

戻るボタン
設定中にひとつ前の項目に戻ります。

電池を入れるとき

1

カバーを矢印の方向に持ち上げる。

2

単３形乾電池２本をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる。

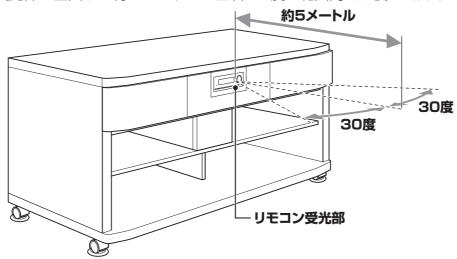
3

カバーを閉める

ご注意

● 指定以外の電池を使用しないでください。
● 電池の極性（⊕と⊖）は正しく入れてください。

リモコンの使い方

本体のリモコン受光部の正面から約５メートル、左右３０度の範囲内でお使いください。

正しく動作させるために

次のような場合、リモコンが正しく動作しないことがあります。

● 本体とリモコンの間に障害物があるとき。
● リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっているとき。

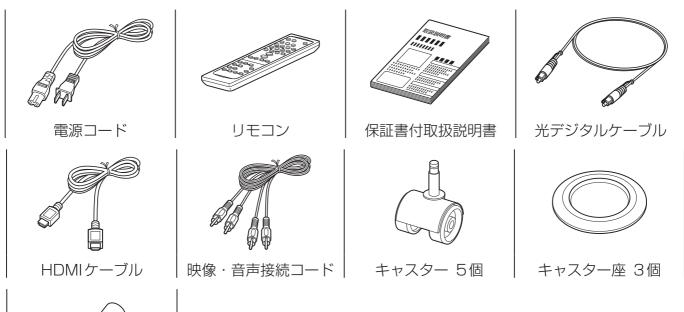
（つづく）

各部のなまえ（つづき）

付属品

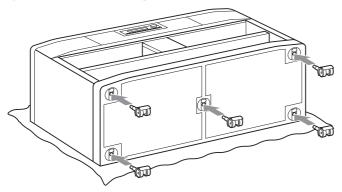
電源コード　リモコン　保証書付取扱説明書　光デジタルケーブル

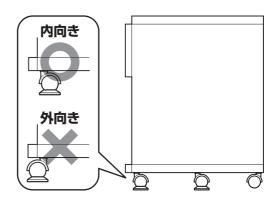
HDMIケーブル　映像・音声接続コード　キャスター ５個　キャスター座 ３個

単３形乾電池 ２本

設置と収納

キャスターの取りつけ

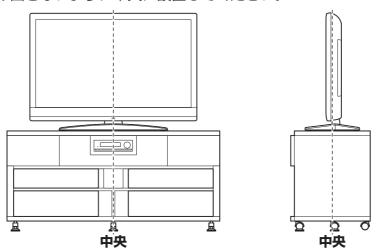
キャスターの取りつけ

床にやわらかい布などを敷いて、ラックを背面側に倒し、図のようにキャスターを取りつけます。シアターラックが動かないように、キャスターの下にキャスター座を敷きます。

キャスターの向き

キャスターがはみ出さないように、キャスターを内向きにしてください。

ご注意

- 設置作業は２人以上で行ってください。
- 不安定な場所を避けて設置してください。
- 不安定な場所では、キャスターを取りつけないでください。
  （畳、毛の長いじゅうたんの上、やわらかい床材の上など）

テレビの設置

- テレビの推奨サイズは42V形以下です。
- テレビは天板よりはみ出さないよう、中央に設置してください。

ご注意

- 機器を設置したあとでケーブルを接続してください。
- 機器の取扱説明書に放熱や通風に関する事項が記載されている場合には、通気を確保して設置してください。

（つづく）

設置と収納(つづき)

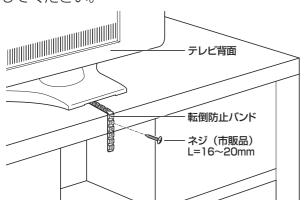
転倒防止のしかた

以下に記載した転倒・落下防止のしかたは、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。

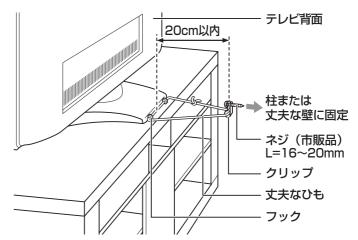
① 転倒防止バンドを使用してシアタラックシステムに固定するとき

- スタンド底面の転倒防止バンドを後方に回転させて、シアタラックシステム本体の背面にネジ(市販品)で固定してください。

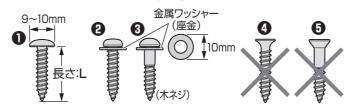
※ 後方には倒れます。固定後は台を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。

② 壁または柱などに固定するとき

- スタンド背面のフックと付属のクリップを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定してください。
- クリップはスタンド背面のフックと同じくらいの高さの場所にネジ(市販品)で取り付けてください。

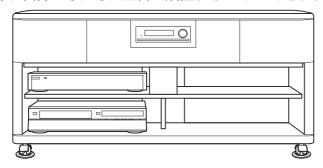
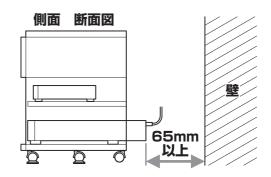
※ 針金や鎖など金属製のものは、瞬間的な衝撃に対する柔軟性が乏しく、本機や柱などの取付部分が破損する原因となるので使用しないでください。

※ 移動するときは、ひもをはずしてください。

③ 固定用のネジ(市販品)について

- 下図を参考に、固定する場所の状況に応じて、しっかりと固定できる長さのタッピングネジや木ネジをご使用ください。
- 頭の形状が❷:ナベ、❸:丸のネジは、固定部の変形・破損防止のためにワッシャーを併用してください。
- 頭の形状が❹:ラッパ、❺:皿のネジは使用しないでください。
- ネジの太さは、公称3.8~4.1mmのものをご使用ください。

ご注意

- プラスドライバーを用意してください。
- 余った転倒防止バンドなどはテレビ内部やコンセントに入らないようテープなどでまとめてください。
- テレビによっては本図のように取りつけできないものがあります。その場合はテレビの取扱説明書に従い、転倒防止対策をしてください。

機器の設置

上段と下段のそれぞれ左右に設置することができます。

壁に近づけて機器を設置するとケーブルが壁面に当たり、ケーブルや機材に負担がかかり故障や動作不良の原因となります。図のように離して設置してください。

ご注意

- 機器を設置したあとでケーブルを接続してください。
- 機器の取扱説明書に放熱や通風に関する事項が記載されている場合には、通気を確保して設置してください。

増設スピーカーを接続する

ホームシアターを楽むためのスピーカーの使いかた

再生する信号や、スピーカーの数、DTS やドルビーデジタル再生、リスニングモードを選ぶことができます。これによって、音の立体感、移動感を実現し、家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しむことができます。

スピーカーの数と用途

● 3つの場合(標準システム):

左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3.1 チャンネルサラウンド)

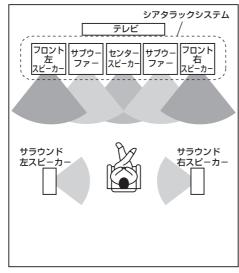
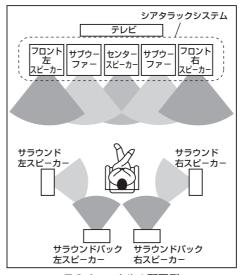
● 5つの場合(拡張システム):

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5.1 チャンネルサラウンド)

● 6つの場合(拡張システム):

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6.1 チャンネルサラウンド)

● 7つの場合(拡張システム):

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7.1 チャンネルサラウンド)

5.1チャンネルの配置例

7.1チャンネルの配置例
(サラウンドバックスピーカーを使用する時は、別途アンプが必要です。)

7つのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。しかし、サラウンドスピーカーがないときは、サラウンドスピーカーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大に引き出します。

サブウーファー(本機に内蔵しています)

低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。

左右フロントスピーカー(本機に内蔵しています)

総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。

センタースピーカー（本機に内蔵しています）

左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

左右サラウンドスピーカー（本機には付属していません）

臨場感を高める役割を果たします。効果音などで音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対象で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

左右サラウンドバックスピーカー（本機には付属していません）

サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。

視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

左右サラウンドバックスピーカーの接続は、本機背面パネルの音声出力（サウンドバック）端子を使用して行います。詳しい接続方法は、XXページをご覧ください。

スピーカー端子への接続方法

増設スピーカー付属のスピーカーコードの準備をします。

① スピーカーコードのビニールカバーの先を外す

② しん線をよじる

③ 接続するスピーカー端子のレバーを押す

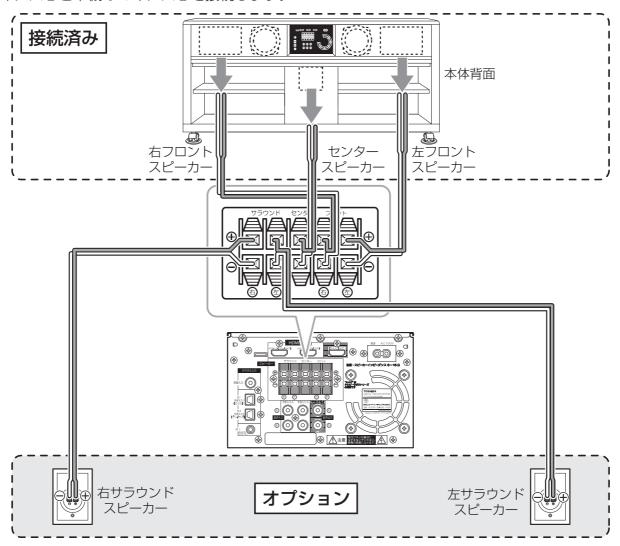
④ しん線を穴の中に入れる

⑤ レバーを離す

増設スピーカーを接続する（つづき）

5.1 チャンネルの接続

増設スピーカー2 台を接続します。

スピーカーは６Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラス⊕と本機のプラス⊕、スピーカーのマイナス⊖と本機のマイナス⊖を接続します。

接続済み

本体背面

右フロント
スピーカー

センター
スピーカー

左フロント
スピーカー

サラウンド　センター　フロント

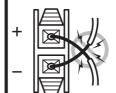
右サラウンド
スピーカー

オプション

左サラウンド
スピーカー

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。
また、背面パネルにも触れないように、ご注意ください。

7.1 チャンネルの接続

接続済み

本体背面

右フロント
スピーカー

センター
スピーカー

左フロント
スピーカー

右サラウンド
スピーカー

左サラウンド
スピーカー

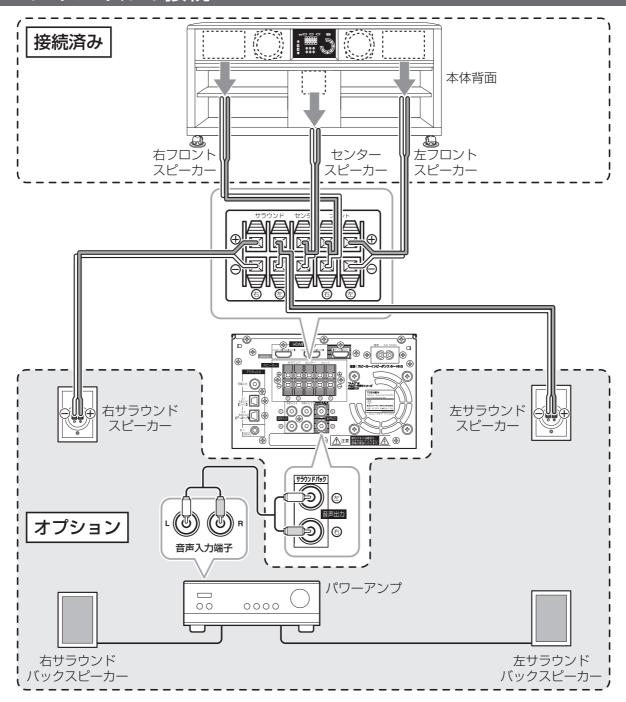
オプション

音声入力端子

サラウンドバック

音声出力

パワーアンプ

右サラウンド
バックスピーカー

左サラウンド
バックスピーカー

7.1 チャンネル接続する場合は、5.1 チャンネル接続に加えて、本機の音声出力（サラウンドバック）端子とパワーアンプの音声入力端子をオーディオ用ピンコードで接続します。左右サラウンドバックスピーカーは、パワーアンプのスピーカー端子に接続してください。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。
また、背面パネルにも触れないように、ご注意ください。

HDMI端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。

従来のDVI（Digital Visual Interface）*[1]規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット

- ●2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- ●マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1ch、32～192kHz、16/20/24bit）
- ●ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTSエクスプレス、DTS-HD マスターオーディオ、DSD、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権保護技術について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*[2]に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。

本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

本機のHDMI出力端子とテレビ/プロジェクターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

[1] DVI（Digital Visual Interface）：DDWG[3]が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*[2] HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

*[3] DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

HDMI機器の接続

HDMI接続では、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。

1 **HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVDレコーダーやDVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。**

初期設定の割り当ては、HDMI 1がVCR/DVR入力、HDMI 2がCBL/SAT入力になっています。

2 **接続したHDMI入力端子が初期設定と異なる場合は、34ページの「HDMI 入力端子の設定を変更する」で設定してください。**

■ 映像信号の流れ

HDMI入力端子から入力したデジタル映像は、HDMI出力端子からのみ出力されます。

■ 音声信号の流れ

HDMI入力端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーへ出力されます。

ご注意

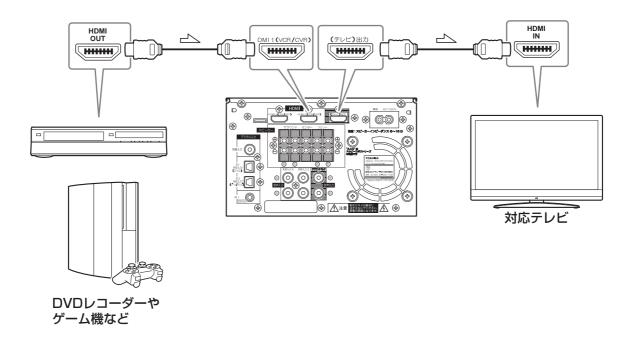
- HDMI機器の音声を本機で聞く場合は、テレビにHDMI機器の映像が映る状態にしておいてください。
  (本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください)HDMIは、映像機器側の認証により映るしくみになっているため、テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

！ヒント

HDMI入力端子から入力した音声信号を、HDMI出力端子から出力してテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、XXページで「Audio TV Out」設定を「On」にしてください。また、DVDプレーヤーなどの設定で、HDMIに出力する設定を2チャンネルPCMになるように設定してください。

（つづく）

HDMI端子を使って接続する（つづき）

ご注意

- 前もってテレビ側の解像度に合わせてDVDプレーヤー等の解像度を調整しておいてください。
- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いることができますが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通してHDMI接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください。（テレビ側の入力設定も確認してください。）テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- HDMI音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタル入力端子を使って機器を接続する

・HDMIに関する接続は、22～24ページをご覧ください。
・DVDプレーヤーなどでドルビーデジタル、DTSサラウンド信号を再生するためには、デジタル入力(光1、2または同軸)端子への接続が必要です。
・パソコンでデジタルサラウンドを楽しむには、デジタル出力(光1、2または同軸)
・に対応したパソコンや音源ボードが必要です。お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

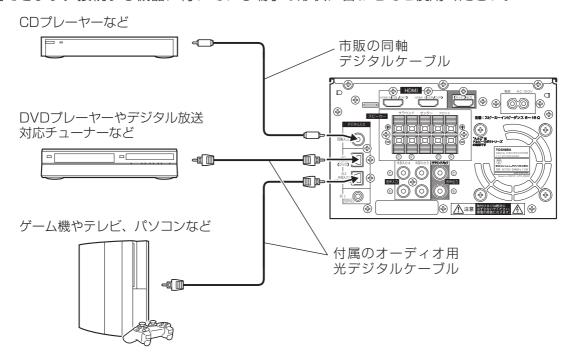
すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

デジタル音声機器の接続をする

DVDプレーヤーやCDプレーヤー、地上、BS、110度CSなどデジタル放送対応チューナー、ゲーム機、パソコンなどのデジタル音声出力端子(光/同軸)と本機の光1、2または同軸(COAXIAL)端子を付属のオーディオ用光デジタルケーブルまたは市販の同軸デジタルケーブルで接続します。接続した機器の音声がデジタルでサラウンド再生されます。

本機では音声接続のみです。映像接続は映像機器から直接テレビに接続してください。

本機のデジタル入力端子は、光(OPTICAL)が2つ、同軸(COAXIAL)が1つありますので、3種類の機器が接続できます。接続する機器に付いている端子の形状に合わせてご使用ください。

！ヒント

● 接続したあと、入力の割り当てを行ってください。(☞35ページ「音声入力端子の設定をする」参照)
● オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
● 接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定が「オフ」になっていることがあります。
● 本機のデジタル入力(光1、2)端子は、とびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにしてオーディオ用光デジタルケーブルを差し込んでください。
● 本機にはインテリボリューム機能があります。機器間の音量差が気になる場合にお使いください。(☞●●ページ)

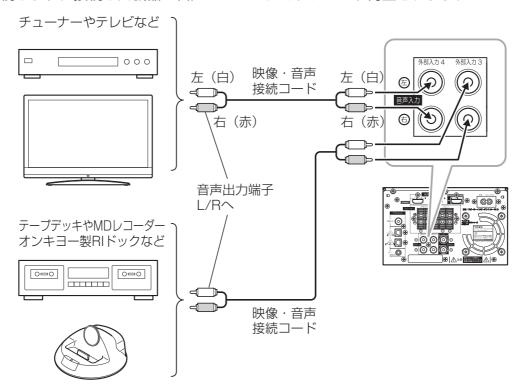
外部入力端子を使って機器を接続する

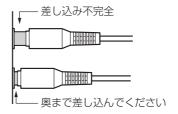
ご注意

- オーディオ用光デジタルケーブルは、まっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、
- とびらが破損する場合があります。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

アナログ音声機器の接続

テレビやビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機の音声入力(外部入力３、４)端子を映像・音声接続コードで接続します。接続した機器の音声がアナログでサラウンド再生されます。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- 映像・音声接続コードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

！ヒント

- 接続したあと、入力の割り当てを行ってください。（☞35ページ「音声入力端子の設定をする」参照）
- 本機にはMusic Optimizer（ミュージック オプティマイザー）機能があります。MP3などの音楽信号をお聞きになるときにお使いください。（☞●●ページ）

レグザリンクを使うための接続をする

レグザリンクとは

本機とHDMIケーブルで接続したレグザリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン１つで簡単に操作できる機能です。各機能の詳しい説明については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

レグザリンク対応機器との連動について

レグザリンクを使う場合は、RI端子を使ったRI機器対応機器との連動機能は使用できません。RI接続はしないでください。

本機はレグザリンク対応機器と接続すると次の動作が可能になります。

① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。

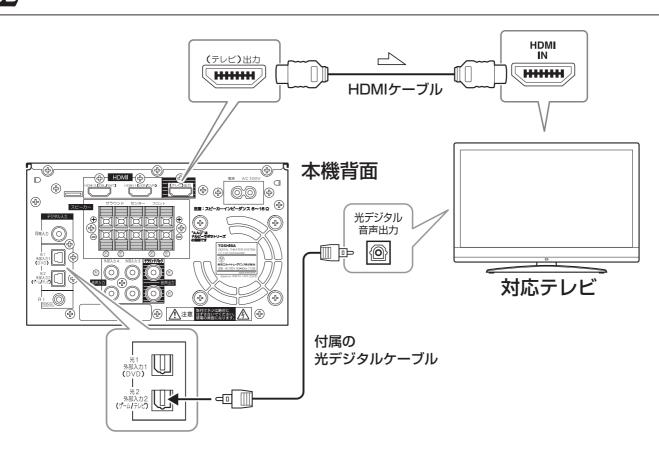
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）を操作することができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）を操作できるようになります。

テレビだけの接続

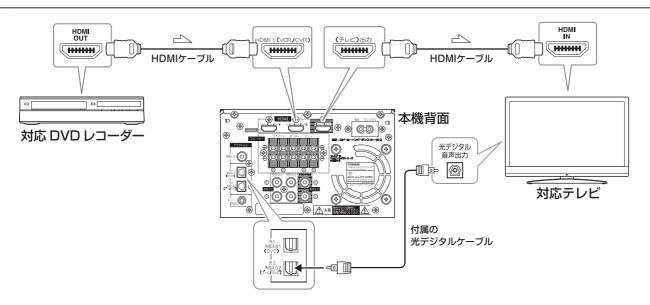
1 **テレビのデジタル音声出力端子をオーディオ用光デジタルケーブルで本機の光デジタル入力端子に接続します。**

2 **テレビのHDMI入力端子をHDMIケーブルで本機のHDMI出力端子に接続します。**

（つづく）

テレビとDVDレコーダーの接続

1 テレビのデジタル音声出力端子をオーディオ用光デジタルケーブルで本機の光デジタル入力端子に接続します。

2 テレビのHDMI入力端子をHDMIケーブルで本機のHDMI出力端子に接続します。

3 DVDレコーダーのHDMI出力端子をHDMIケーブルで本機のHDMI入力端子に接続します。

RI機能を使う接続をする

オンキヨー製品との接続

RI機能のあるオンキヨー製品を本機にRIケーブル、オーディオ用ピンコードで接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。

オートパワーオン

本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。

また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

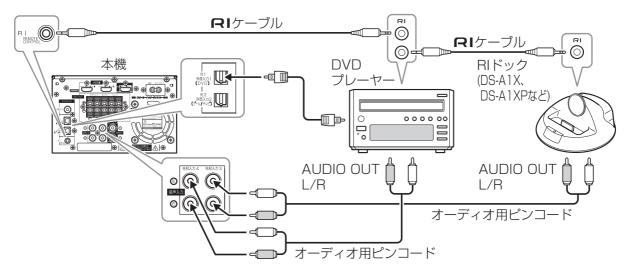
ダイレクトチェンジ

本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作

本機に付属のリモコンでDVDプレーヤーやRIドックに乗せたiPodを操作することができます。接続については下記を、入力表示の設定のしかたについては37ページを、操作できる機能については30ページをご覧ください。

■ RIケーブルについて

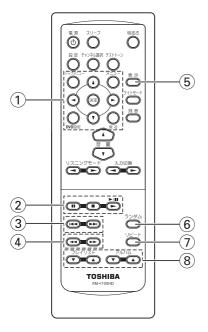
- RI端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。（本機にはRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）
- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
- RIドックを接続したときは、TAPE（テープ）入力をDOCK（ドック）に切り換え（☞37ページ）、その入力にRIドックを接続した端子を割り当ててください。（☞35ページ）

- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 接続が正しくないと各機能は働きません。上記を参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

（つづく）

RI機能を使う接続をする(つづき)

オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックを接続すると、下記のリモコン操作ができます。

・ 機器の接続については25、26ページを、RI接続については前ページを、入力の割り当てについては35ページを、入力表示については37ページをご覧ください。所定の接続や設定をしないと、下記の操作はできません。

ご注意

- 空欄はボタンを押しても動作しません。
- 第3世代iPodの場合、►/II、I◄◄/►►I、◄◄/►►ボタンのみ働きます。
- iPodのファームウェアのバージョンアップ等により、操作できる機能の範囲や内容が変更になることがあります。
- それぞれのボタンの働きについての詳細は、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 入力が「DVD」、「DOCK」のときは、スタンバイ時に►(プレイ)ボタンを押すと本機の電源が入り、接続している機器の再生が自動的に始まります。

	リモコンのボタン名 ＼ 入力名称	DVD	DOCK
①*1	トップメニュー	TOP MENU	
	メニュー	MENU	MENU
	▲/▼	▲/▼	▲/▼
	◄/►	◄/►	
	決定	ENTER	SELECT
	DVD設定	SETUPまたはDVD SETUP	
	戻る	RETURN	
②	II	II	
	► (►/II)	►	►/II
	■	■	
③	I◄◄/►►I	I◄◄/►►I	I◄◄/►►I
④	◄◄/►►	◄◄/►►	◄◄/►►
⑤	表示	DISPLAY*2	BACKLIGHT*2
⑥	ランダム	PLAY MODE	SHUFFLE
⑦	リピート	リピート	REPEAT
⑧	プレイリスト▲/▼		PLAYLIST▲/▼
	アルバム▲/▼		ALBUM▲/▼

*1 設定、チャンネル選択、テスト音の操作中は、▲/▼/◄/►/決定/戻るボタンは本機を操作するボタンとして働きます。このとき、トップメニュー/メニュー/DVD設定ボタンは働きません。

*2 3秒間長押しすると、記載の機能として働きます。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの接続

レグザリンクやHDMIコントロール機能（☞●●～●●ページ）を使う場合は、}端子を使ったテレビとの連動機能は使用できません。本ページで説明する RI 接続はしないでください。

本機は RI 端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
　このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）を操作することができます。

③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）を操作できるようになります。

> 連動動作が可能なテレビかどうかについては、テレビのカタログや取扱説明書で、テレビに}端子が装備されていることをご確認ください。
>
> 本機に}ケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

■ 接続のしかた

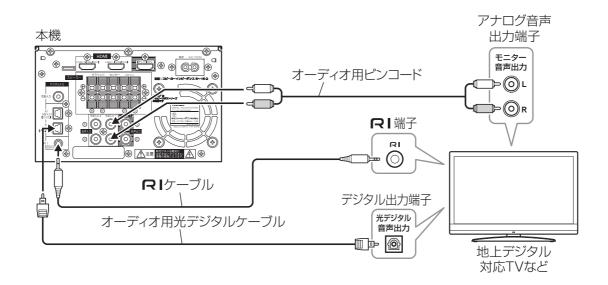
1 **テレビのデジタル音声出力端子をオーディオ用光デジタルケーブルで本機の光デジタル入力端子に接続します。**

2 **テレビのアナログ音声出力端子をオーディオ用ピンコードで本機の音声入力端子（外部入力端子）に接続します。**

3 **RI 端子どうしをRI ケーブルで接続します。**

他のオンキヨー製品を接続する場合は、RI ケーブルで RI 端子どうしをつないでください。

RI 端子が２つある製品の場合、２つの端子の働きは同じですのでどちらにでもつなげます。

（つづく）

RI機能を使う接続をする（つづき）

■ 設定のしかた

35ページを参照して設定を行ってください。初期設定では、あらかじめ「OPT2」に設定されています。

1 **本機の電源を入れる。**

---

2 **本機のINPUTボタンを（くり返し）押し、「GAME/TV」を表示させる。**

---

3 **次の方法でGAME/TV入力にOPT2を割り当てる。**

①リモコンの設定ボタンを押して「1.Input Assign」を表示させ、決定ボタンを押します。

②▼ボタンで「Audio Input」を表示させ、決定ボタンを押します。

③▲/▼ボタンで「GAME/TV」を表示させ、◀/▶ボタンで「OPT2」を選びます。

④設定ボタンを押して設定を終了します。

ご使用上の注意

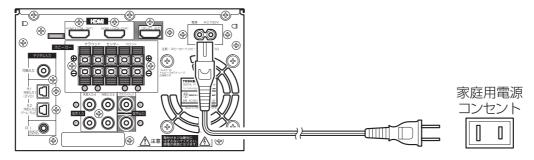
テレビを連動させる場合、「外部入力３」または「外部入力４」端子の接続も必要ですが、入力割り当ては「OPT2」をご使用ください。「外部入力３」や「外部入力４」端子でもご使用いただけますが、アナログ接続のため、リスニングモードのAAC 5.1chなどの再生ができません。

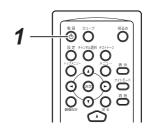
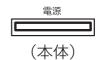
電源コードを接続する

ご注意

- 付属の電源コード以外の電源コードは使用しないでください。
  また、付属の電源コードは本機以外の機器には使用しないでください。故障や事故の原因となります。
- 電源コードのプラグを壁の電源コンセントに接続したまま、本機の電源入力AC100V端子から電源コードを抜いたり、つないだりすると感電する場合があります。電源コードを接続するときは、先に本体側の電源入力AC100V端子に接続し、抜くときは、最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますのでコンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

電源コードのプラグを家庭用電源コンセントに接続すると、スタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

電源を入れる

1 **本体前面パネルの[電源]ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す**

スタンバイインジケーターが消え、表示部が点灯します。

（本体）

（リモコン）

使う前の設定をする

HDMI入力端子の設定を変更する(映像)

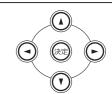
HDMI入力端子に、HDMI出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続しているときに設定します。

各HDMI入力端子は1つの入力機器にしか割り当てることができません。割り当てを変更したい場合は、すでに割り当ててある入力ソースの設定を「−−−−−−」にしてください。

下記は、DVDプレーヤーを本機のHDMI IN1端子に接続したときの変更例です。

入力ソース	HDMI入力端子の初期設定
DVD	−−−−−−
VCR/DVR	HDMI 1
CBL/SAT	HDMI 2
GAME/TV	−−−−−−
TAPE	−−−−−−
TUNER	−−−−−−
CD	−−−−−−

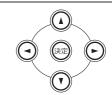
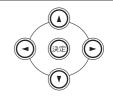
1 **設定ボタンを押す**

2 **▼/▲ボタンを押して「1.Input Assign」(インプット アサイン)を選び、決定ボタンを押す**

1.Input Assign

3 **「HDMI Input」(エイチディーエムアイ インプット)と表示されるので、決定ボタンを押す**

設定の表示が出ます。

4 **▲/▼ボタンを押して「VCR/DVR:HDMI 1」を選び、◀/▶ボタンで「−−−−−−」を選ぶ**

5 **▲/▼ボタンを押して「設定する入力ソース」(今回の例では「DVD」)を選び、◀/▶ボタンで「HDMI 1」を選ぶ**

DVD :HDMI1

6 **設定ボタンを押す**

設定が終了します。

ご注意

- HDMI入力端子に設定した入力の音声入力端子は、各々自動的に「HDMI IN 1」、「HDMI IN 2」に割り当てられます。(☞●●ページ)

音声入力端子の設定をする

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。

各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

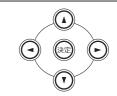
- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「LINE 1」または「LINE 2」にする必要があります。
- 前ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定にも自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

入力ソース	HDMI入力端子の初期設定
DVD	OPT 1
VCR/DVR	HDMI 1
CBL/SAT	HDMI 2
GAME/TV	OPT 2
TAPE	LINE 1
TUNER	LINE 2
CD	COAX

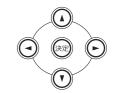
1 **設定ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンを押して「1.Input Assign（インプット アサイン）」を選び、決定ボタンを押す**

1.Input Assign

3 **▲/▼ボタンを押して「Audio Input（オーディオ インプット）」を選び、決定ボタンを押す**

DVD :OPT1

4 **▲/▼ボタンを押して「接続した端子」を選び、◀/▶ボタンを押して設定を選ぶ**

例：本機後面のデジタル入力(光１)端子にDVDレコーダーを接続した場合

VCR/DVRのデジタル入力端子の初期設定は「HDMI1」のため、「OPT1」に設定を変更します。

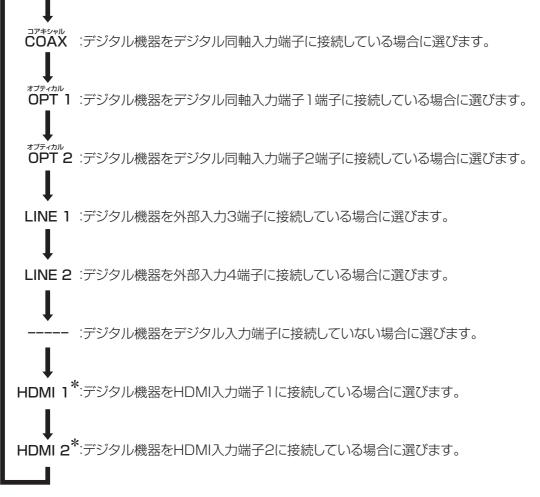
DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVDのデジタル入力端子の初期設定は「OPT 1」のため、「LINE 1」または「LINE 2」に設定を変更します。

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

（つづく）

使う前の設定をする(つづき)

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

＊●●ページでHDMI端子を設定した入力に、そのHDMI端子を割り当てることができます。

設定ボタンを押す

設定が終了します。

ご注意

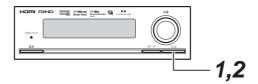
● HDMI入力端子に設定した入力の音声入力端子は、各々自動的に「HDMI IN 1」、「HDMI IN 2」に割り当てられます。(☞35ページ)

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックを本機の外部入力3、4端子に接続した場合は、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります。

■「TAPE(テープ)」の表示内容を切り換える

外部入力3、4端子に、オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックなどHDD関連機器のいずれかを接続した場合

1,2

1 [入力切替]ボタンをくり返し押し、表示部に「TAPE」を表示させる

入力

TAPE

2 [入力切替]ボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

入力

MD

CDR

DOCK

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」と表示が切り換わります。

(つづく)

使う前の設定をする(つづき)

レグザリンクの設定をする

1 本機の電源を入れる。

2 リモコンの設定ボタンを押す

設定

3 ▲/▼ボタンを押して「6.HDMI Setup」を選び、決定ボタンを押す

6.HDMI Setup

4 ▲/▼ボタンを押して「Control」を選び、◀/▶ボタンで「Enable」を選ぶ

Control:Enable

5 ▲/▼ボタンを押して「PowCtrl」を選び、◀/▶ボタンで「Enable」を選ぶ

PowCtrl:Enable

※初期設定ですでにEnableになっています。

6 ▲/▼ボタンを押して「TV Ctrl」を選び、◀/▶ボタンで「Enable」を選ぶ

TV Ctrl:Enable

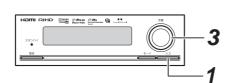
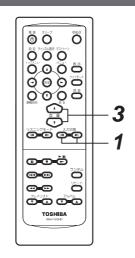
7 設定ボタンを押す

設定

ご注意

- Control、Power Control、TV Controlの設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度切って、再度入れなおしてください。また、接続機器の取扱説明書を必ずお読みください。

再生する

再生機器を選ぶ

1 再生する機器を選ぶ

本体の[入力切替]ボタンまたは、リモコンの入力切換◀/▶ボタンを押します。

34～36ページの「音声入力端子の設定」で、何も割り当てなかった入力は選択できません。

2 選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3 本体の[音量]つまみまたは、リモコンの音量▲/▼ボタンで音量を調整する

音量はMin･1･2……78･79･Maxまでの範囲で調整できます。

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

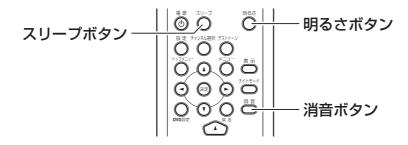
4 リスニングモードを楽しむ

詳しくは42ページをご覧ください。

！ヒント 音が出ないとき

- **接続を確認する**：選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。上記の手順で入力を切り換え、順番に再生して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する**：部屋の大きさなどにもよりますが、音量の数値は通常30～45でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体の表示部で音量の数値を確認してください。

（つづく）

再生する(つづき)

一時的に音量を小さくする

リモコンの消音ボタンを押す

音量がごく小さくなり、消音機能が働いている間MUTINGインジケーターが点滅します。

解除するには…

もう一度消音ボタンを押してください。

MUTINGインジケーターが消え、元の音量に戻ります。

音量調整をしたり、本機をスタンバイ状態にしたときも解除されます。

表示部の明るさを変える

リモコンの明るさボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

スリープタイマーを使う

リモコンのスリープボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

・スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

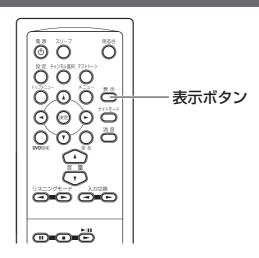
残り時間を確かめるには

スリープタイマー動作中にスリープボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。

ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びスリープボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまでくり返しスリープボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

表示を確認する

表示ボタンをくり返し押す

表示ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。

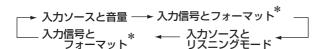
・ 入力されている信号により、表示される内容は異なります。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

● 入力信号がPCMのとき

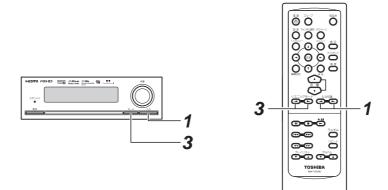
→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数* → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数* →（入力ソースと音量へ戻る）

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

＊入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約３秒経過すると、元の表示に戻ります。

● 入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)のとき

リスニングモードを楽しむ

リスニングモードを使う

1 **本体の[入力切替]ボタンまたはリモコンの入力切換◀ / ▶ボタンを(くり返し)押し、再生したい機器を選ぶ**

表示部に選んだ入力とリスニングモードが表示されます。

2 **選んだ機器を再生する**

3 **本体のLISTENING MODE ボタンまたはリモコンのリスニングモード◀ / ▶ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ**

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。

選べるモードは入力信号の種類によって異なります。●～●ページの表をご覧ください。

DVD Surr Sens

リスニングモード

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー
センタースピーカー
右フロントスピーカー
サブウーファー
左サラウンドスピーカー
左右サラウンドバックスピーカー
右サラウンドスピーカー

◇ Direct（ダイレクト）

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。58ページ「スピーカー環境の設定」で、「Subwoofer」を「No」に設定した場合のみ、選択することができます。

◇ Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

◇ Mono（モノ）

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

◇ Dolby Pro Logic IIx（ドルビー プロ ロジック）

2チャンネルで収録された音楽や映画を6.1から7.1チャンネルで再生できます。

明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。

5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。

◇ Dolby PL IIx Movie（ムービー）

VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。

◇ Dolby PL IIx Music（ミュージック）

CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。

◇ Dolby PL IIx Game（ゲーム）

ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

◇ Dolby Pro Logic II（ドルビー プロ ロジック）

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、このリスニングモードになります。

2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。

◇ Dolby Digital（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby DigitalロゴのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

◇ Dolby Digital EX/Dolby EX（ドルビー デジタル/ドルビー）

5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1/7.1チャンネルで再生できます。

5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録されたDolby DigitalロゴのついたDVD、LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolby EXとなります。

◇ Dolby Digital Plus（ドルビー デジタル プラス）

Dolby Digital Plusフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

◇ Dolby TrueHD（ドルビー トゥルーエイチディー）

Dolby TrueHDフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

本機が対応している信号については、49ページを参照してください。

リスニングモードを楽しむ（つづき）

◇ DTS

完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。DTSロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

◇ DTS 96/24

DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

◇ DTS-ES Discrete（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1/7.1チャンネルサラウンドです。

追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

◇ DTS-ES Matrix（マトリックス）

DTS-ES収録ソフトを6.1/7.1チャンネル再生します。

DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1チャンネルに復元して再生します。

DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

◇ DTS Neo（ネオ）：6

2チャンネルで収録されたソースを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。

映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードが選択できます。

5.1チャンネルで収録されたDTSロゴのついたDVDやCDの再生時はNeo：6となり、6.1/7.1チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

◇ DTS-HD High（ハイ） Resolution（リゾリューション） Audio（オーディオ）

DTS-HD High Resolution Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

◇ DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）

DTS-HD Master Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

本機が対応している信号については、50ページを参照してください。

◇ DTS Express（エクスプレス）

最大5.1ch、48kHzのロービットレート音声です。HD DVDのサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

◇ DTS Surround（サラウンド） Sensation（センセーション）

2つのスピーカーで5.1チャンネルサラウンド再生のようなバーチャル再生をするリスニングモードです。

映画だけでなく、音楽でも自然なサラウンドをお楽しみいただけます。

◇ AAC

MPEG（エムペグ）-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。

地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

◇ Multich（マルチチャンネル）

HDMI接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

◇ DSD

DSD(Direct（ダイレクト） Stream（ストリーム） Digital（デジタル）)は、スーパーオーディオCDに採用されているフォーマットです。このモードは、DSDフォーマットのSACD再生時に選べます。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

◇ Mono（モノ） Movie（ムービー）

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

◇ Orchestra（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。

音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

◇ Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。

◇ Studio（スタジオ）-Mix（ミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

◇ TV Logic（ロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。

局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

◇ All Ch（オールチャンネル） Stereo（ステレオ）

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

◇ Full（フル） Mono（モノ）

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

◇ Theater（シアター）-Dimensional（ディメンショナル） または

２つまたは３つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？(☞●ページ)または、HDMI接続はしましたか？(☞●～●ページ)
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

（つづく）

リスニングモードを楽しむ（つづき）

入力信号の種類と対応するリスニングモード

■ Analog（アナログ）、PCMソース

入力信号の種類とフォーマット	PCM		マルチチャンネルアナログ	マルチチャンネルPCM					
	32-96kHz*1	176.4/192kHz*2		32-96kHz*1			176.4/192kHz*2		
				マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	CD,TV,ラジオ		DVD	DVD、ブルーレイディスク			DVD、ブルーレイディスク		
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●		●	●	●	●	●	●
Mono	●			●	●	●			
Multichannel				●			●		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*3	●			●*6	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*3	●			●*6	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*3	●				●				
Dolby EX				●*6					
Neo:6				●*6					
Neo:6 Cinema	●				●				
Neo:6 Music	●				●				
Mono Movie*4 *5	●			●	●	●			
Orchestra*4 *5	●			●	●	●			
Unplugged *4 *5	●			●	●	●			
Studio-Mix*4 *5	●			●	●	●			
TV Logic*4 *5	●			●	●	●			
All Ch Stereo	●			●	●	●			
Full Mono	●			●	●	●			
T-D *5	●			●	●	●			
Surround Sensation*5 *7	●	●	●	●	●	●			

*1 32/44.1/48/88.2/96kHz

*2 マルチチャンネルの176.4/192kHz PCM信号は、HDMI端子からのみ出力します。

*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。

*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選ぶことができません。

*5 88.2 kHz、96 kHzのPCMは、それぞれ44.1kHz、48kHzで処理されます。

*6 ソースによっては、選ぶことができないことがあります。

*7 Surround Sensationは、32kHz入力信号に対しては対応していません。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選ぶことができます。
（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。
（7.1チャンネル再生時）

■ Dolby Digital、Dolby Digital Plusソース

入力信号の種類とフォーマット	ドルビーデジタル			ドルビーデジタルプラス		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	DVD, DTVなど			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
Dolby Digital	●					
Dolby Digital Plus				●*1		
Neo:6	●*4			●		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*2	●*4	●		●	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*2	●*4	●		●	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●			●	
Dolby EX	●*4			●		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
Mono Movie*3	●	●	●			
Orchestra*3	●	●	●			
Unplugged*3	●	●	●			
Studio-Mix*3	●	●	●			
TV Logic*3	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●			
Surround Sensation	●	●	●	●	●	●

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、入力信号によっては、Dolby Digitalが代わりに使用されます。

＊2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。

＊3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選ぶことができません。

＊4 ソースによっては、選ぶことができないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選ぶことができます。
（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。
（7.1チャンネル再生時）

ご注意

● HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の1つと考えられますが、故障ではありません。

（つづく）

リスニングモードを楽しむ（つづき）

■ DTSソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS, DTS 96/24			DTS Discrete/Matrix
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	
主なソース / リスニングモード	DVD, CDなど			DVD, CDなど
Direct	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●
DTS, DTS 96/24	●			
DTS-ES Discrete/Matrix				●*1
Neo:6	●*5			
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*2	●*5	●		
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*2	●*5	●		
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*2		●		
Dolby EX	●*5			
Neo:6 Cinema		●		
Neo:6 Music		●		
Mono Movie*3 *4	●	●	●	●
Orchestra*3 *4	●	●	●	●
Unplugged*3 *4	●	●	●	●
Studio-Mix*3 *4	●	●	●	●
TV Logic*3 *4	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●
T-D*4	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
＊2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
＊3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選ぶことができません。
＊4 DTS 96/24は、DTSで処理されます。
＊5 ソースによっては、選ぶことができないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを１つ以上接続しているときに選ぶことができます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。（7.1チャンネル再生時）

■ True HD ソース

入力信号の種類とフォーマット	TrueHD			TrueHD 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●			
TrueHD	●			●		
Neo:6	●*2					
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●				
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*1	●*2	●				
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●				
Dolby EX	●*2					
Neo:6 Cinema		●				
Neo:6 Music		●				
All Ch Stereo	●	●	●			
Full Mono	●	●	●			
T-D	●	●	●			
Surround Sensation	●	●	●			

*1　サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*2　ソースによっては、選ぶことができないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを１つ以上接続しているときに選ぶことができます。
（6.1 または7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。
（7.1 チャンネル再生時）

ご注意

● HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の１つと考えられますが、故障ではありません。

リスニングモードを楽しむ(つづき)

■ DTS-HDソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS-HD High Resolution			DTS-HD Master Audio		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
DTS-HD High Resolution	●					
DTS-HD Master Audio				●		
Neo:6	●*2			●*2		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●		●*2	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*1	●*2	●		●*2	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●			●	
Dolby EX	●*2			●*2		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●	●	●

＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
＊2 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選ぶことができます。
(6.1または7.1チャンネル再生時)

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。
(7.1チャンネル再生時)

ご注意

● HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の1つと考えられますが、故障ではありません。

■ DTS Express（エクスプレス）、DSDソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS Express			DSD*1	
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル (5.1)	2ch
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			SACD	
Direct	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●
DTS-HD Express	●				
DSD				●	
Neo:6	●*4			●	
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*2	●*4	●		●	●
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*2	●*4	●		●	●
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*2		●			●
Dolby EX	●*4			●	
Neo:6 Cinema		●			●
Neo:6 Music		●			●
Mono Movie*3				●	●
Orchestra*3				●	●
Unplugged*3				●	●
Studio-Mix*3				●	●
TV Logic*3				●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●	●

*1 DSD信号は、PCM44.1kHzに変換されてから処理されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 ソースによっては、選べないことがあります。

ご注意

- HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の1つと考えられますが、故障ではありません。

！ヒント

お手持ちのSACDプレーヤーでPCM出力かDSD出力かを選択できるときは、PCM出力を選ぶことでより良い音質でお楽しみいただける場合があります。

（つづく）

リスニングモードを楽しむ(つづき)

■ AAC ソース

入力信号の種類とフォーマット	AAC		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	地上/BS/110° CSデジタル		
Direct	●	●	●
Stereo	●	●	●
Mono	●	●	●
AAC	●		
Neo:6	●[*3]		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie[*1]	●[*3]	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music[*1]	●[*3]	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game[*1]		●	
Dolby EX	●[*3]		
Neo:6 Cinema		●	
Neo:6 Music		●	
Mono Movie[*2]	●	●	●
Orchestra[*2]	●	●	●
Unplugged[*2]	●	●	●
Studio-Mix[*2]	●	●	●
TV Logic[*2]	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●
Full Mono	●	●	●
T-D	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●

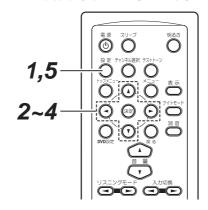
＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
＊2 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊3 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選ぶことができます。
(6.1または7.1チャンネル再生時)

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選ぶことができます。
(7.1チャンネル再生時)

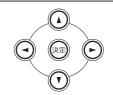
音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

---

1 **設定ボタンを押す**

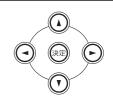
---

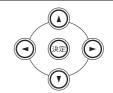
2 **▲/▼ボタンを押して「3. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、決定ボタンを押す**

設定の表示が出ます。

3.Audio Adjust

---

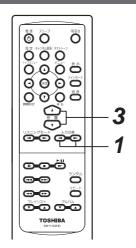
3 **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す**

---

4 **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する**

---

5 **設定ボタンを押す**

設定が終了します。

（つづく）

リスニングモードを楽しむ（つづき）

再生機器を選ぶ

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1 再生する機器を選ぶ

本体のINPUT（インプット）ボタンまたは、リモコンの入力切換◀/▶ボタンを押します。

●●～●●ページの「音声入力端子の設定」で、何も割り当てなかった入力は選択できません。

2 選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3 本体のMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）ツマミまたは、リモコンの音量▲/▼ボタンで音量を調整する

音量はMin･1･2……78･79･Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4 リスニングモードを楽しむ

詳しくは●●ページをご覧ください。

！ヒント 音が出ないとき

- **接続を確認する**：選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。上記の手順で入力を切り換え、順番に再生して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する**：部屋の大きさなどにもよりますが、音量の数値は通常30～45でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体の表示部で音量の数値を確認してください。

Multiplex（マルチプレックス）/Mono（モノ）時の設定をする

Input（インプット） (Mux（マルチプレックス）)

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。

表示ボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

- Main（メイン）：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
- Sub（サブ）：副音声を出力します。
- M/S：主音声と副音声の両方を出力します。

Input（インプット） (Mono（モノ）)

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

- L＋R：左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）
- L（レフト）：左チャンネルの信号を再生します。
- R（ライト）：右チャンネルの信号を再生します。

PL Ⅱ x Music（ミュージック）/Neo（ネオ）:6Music時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama（パノラマ）

前方の音場を横方向に広げることができます。

お買い上げ時の設定は「Off（オフ）」に設定されています。

- On（オン）：パノラマ効果をオンにします。
- Off（オフ）：パノラマ効果をオフにします。

Dimension（ディメンション）

音場を前方または後方へ移動させせることができます。お買い上げ時の設定は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、＋1、＋2、＋3にすると後方へ、－1、－2、－3にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

（つづく）

リスニングモードを楽しむ（つづき）

Center Width

・センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
・この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0～7の範囲で選択できます。

Center Image

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo：6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。お買い上げ時の設定は「2」ですが、0～5の範囲で選択できます。

！ヒント

・「0」は左右のチャンネルから半分（－6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
・「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX信号の再生方法を設定する

Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラスにのみ効果があります。
Auto ：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードがDolby EXに切り換わります。（お買い上げ時の設定）
Manual ： 選択可能なすべてのリスニングモードを選ぶことができます。

シアターディメンショナル時の調整をする（T-D）

Listn Angl

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide（広い）、Middle（中間）とNarrow（狭い）の中から選べます。
お買い上げ時の設定はMiddleです。

Front 5.1ch

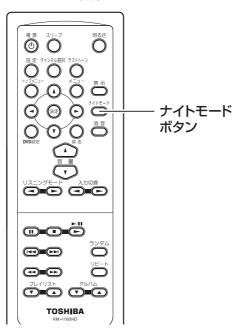
接続しているスピーカーをすべて前方に置いてシアターディメンショナルを楽しむ場合の設定です。
Yes： スピーカーを前方に置いている場合に選びます。
No ： 通常の配置にしている場合に選びます。（お買い上げ時の設定）

ナイトモード機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD 再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。ナイトモード機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

ナイトモードボタンを押す

（リモコン）

押すたびにモードが切り換わります。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

Off（オフ）：ナイトモード機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

ドルビーTrueHD（トゥルー）

Auto（オート）：ナイトモード機能は、自動でOnかOffに設定されます。
（お買い上げ時の設定）
Off（オフ）：ナイトモード機能をOffにします。
On（オン）：音量幅を小さくします。

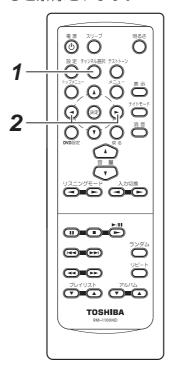
ご注意

- ナイトモード機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、ナイトモードのモードを変えても効果に変化のないものもあります。

（つづく）

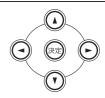
リスニングモードを楽しむ（つづき）

一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。
この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1 **再生中にリモコンのチャンネル選択ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ**

チャンネル選択

2 **◀/▶ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する**

◀ボタンを押すと音量が下がり、▶ボタンを押すと上がります。－12dB～＋12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、－15dB～＋12dBの範囲で設定できます。）調整後、何も操作せず５秒たつと元の表示に戻ります。

！ヒント

入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

※ 調整した値を記憶させたい場合は、テストトーンボタンで記憶させることができます。（☞●●ページ）

レグザリンクを楽しむ

ワンタッチプレイについて

● レグザリンク対応DVDレコーダーを操作すると、DVDレコーダーに連動してテレビの電源が「入」になり、操作した機器に合わせて入力が切り換わります。

※ あらかじめ「HDMI連動設定」が必要です。

本機の電源がスタンバイのときでも、テレビにHDMI信号が伝送され、DVDを楽しむことができます。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

テレビのリモコンでテレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。本機の電源を入れると、本機のスピーカーから音がでます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音がでます。

テレビ、DVDプレーヤー、本機の電源を切る

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も連動して切ることができます。

システムスタンバイについて

● 本機のリモコンや、オフタイマー、省エネ設定の機能などでテレビが「待機」になったときに、テレビからのシステムスタンバイが働き、接続したHDMI連動機能対応（レグザリンク対応）機器も同時に電源が「待機」になります。接続機器側がシステムスタンバイに対応している場合、接続機器の電源が待機状態になると、本機の電源も待機状態になります。

※ あらかじめ「HDMI連動設定」が必要です。

HDMI連動機能対応（レグザリンク対応）機器について

AVシステム機器（AVアンプなど）について

● AVシステム機器の入力状態によっては、本機から音声が出ない場合があります。

● AVシステム連動操作中にAVシステム機器側の入力を切り換えると、実際の映像と画面右上の接続機器表示が一致しない場合があります。

● AVシステム機器の電源プラグをコンセントに差す前に、本機の電源を「入」にしてください。この順番が逆になると、HDMI連動機能を使用したときにAVシステムが正しく動作しないことがあります。その場合は本機の電源を入れた状態で、AVシステム機器の電源切／入をしてください。

※ 停電のあとやブレーカーの操作などで本機とAVシステム機器の電源が同時にはいった場合にも、上記の操作が必要になることがあります。

便利な設定に変更する

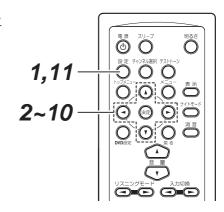
スピーカーの設定をする

本機に接続してあるスピーカーをはずし、他のスピーカーを接続した場合や増設した場合、スピーカーの設定を変更するときに使用します。

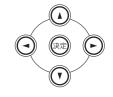
スピーカー環境の設定

接続したスピーカーの「有／無」と「大きさ」を設定します。

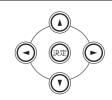
スピーカーの大きさの目安

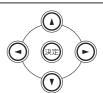
目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

1 **設定ボタンを押す**

2 **▲／▼ボタンを押して「2.Speaker Setup」を選び、決定ボタンを押す**

スピーカーコンフィグ設定表示が出ます。

Speaker Config

3 **決定ボタンを押すと「Subwoofer」を設定する表示になるので、▲／▼ボタンでサブウーファーの「有／無」を選ぶ**

Yes ：サブウーファーを使用する場合
No ：サブウーファーを使用しない場合

4 **▼ボタンを押して「Front」を選び、◀／▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ**

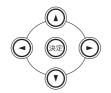
Small ：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large ：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

● 手順3で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は選択できません。

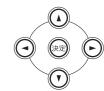
5 ▼ボタンを押して「Cntr」を選び、◀ / ▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small ：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large ：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None ：センタースピーカーを接続していない場合

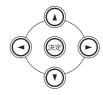
ご注意

● 手順４ で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6 ▼ボタンを押して「Surr」を選び、◀ / ▶ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

Small ：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large ：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None ：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

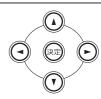
ご注意

● 手順４ で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7 ▼ボタンを押して「Surr B」を選び、◀ / ▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small ：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large ：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None ：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

● 手順６ で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
● 手順６ で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8 ▼ボタンを押して「SurrBack Ch」を選び、◀ / ▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch： 接続したサラウンドバックスピーカーが１つの場合
（サラウンドバック端子　左に接続してください。）
2ch： 接続したサラウンドバックスピーカーが２つの場合

ご注意

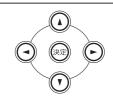
● 手順７ で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

（つづく）

便利な設定に変更する（つづき）

9 ▼ボタンを押して「Xover」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

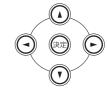
目安としてサブウーファーを使用する場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーを使用しない場合は「スピーカーの環境設定」（☞●●ページ）で最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	40/50/60
16～20cm	80
13～16cm	100
9～13cm	120
9 cm 以下	150(初期設定)/200

⇨手順 10 に続く

Double Bassの設定

サブウーファーを「Yes(有り)」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

10 ▲/▼ボタンを押して「D.Bass」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On　：サブウーファーを強調します。
Off　：サブウーファーを強調しません。

11 設定ボタンを押す

設定が終了します。

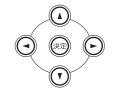
！ヒント

1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

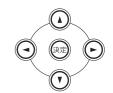
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、シアターラックシステムをより快適にお楽しみいただけます。

1 設定ボタンを押す

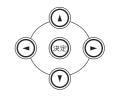
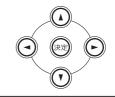
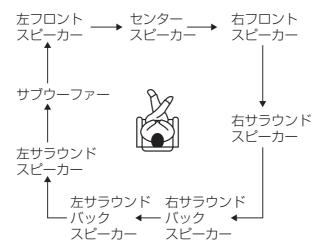
2 ▲/▼ボタンを押して「2.Speaker Setup」を選び、決定ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押して「SpeakerDistance」を選び、決定ボタンを押す

単位を選ぶ設定が表示されます。

Unit :meters

4 ▲/▼ボタンで設定する「単位」を選ぶ

meters（メートル）：距離をメートルで設定する。0.3m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet（フィート）：距離をフィートで設定する。1ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

5 ▲/▼ボタンを押して「Left」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

6 手順5をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

！ヒント

- 「スピーカー環境の設定」で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。
- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の± 1.5 mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の－ 4.5 mから＋ 1.5 mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6 mに設定した場合、1.5 mから7.5 mの範囲で、フロントスピーカーを3mに設定した場合だと、0.3mから4.5mの範囲で調整できます。

7 **設定ボタンを押す**

設定が終了します。

！ヒント

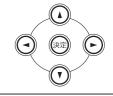
1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

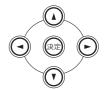
スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

・ミューティング中は、設定できません。

1 **設定ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンを押して「2.Speaker Setup」を選び、決定ボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押して「Level Cal」を選び、決定ボタンを押す**

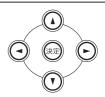
「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

`Left          :0.0dB`

ご注意

- 「スピーカー環境の設定」で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

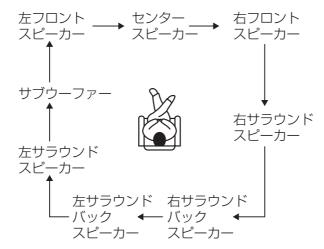
4 ▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄＢの範囲で調整できます。
- サブウーファーは－15dB～+12ｄＢの範囲内で調整できます。

5 手順4をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

設定ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

テストトーンボタンでテスト音を出して設定することもできます。

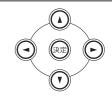
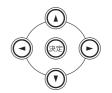
① テストトーンボタンを押して、テスト音を出します。
② 次に◀/▶ボタンでテスト音を調整し、チャンネル選択ボタンでスピーカーを切り換えます。
③ もう一度テストトーンボタンを押すと、終了します。

便利な設定に変更する（つづき）

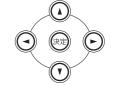
スピーカーの音場補正

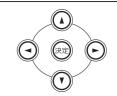
接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1 **設定ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンを押して「2.Speaker Setup（スピーカー セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押して「Equalizer（イコライザー）」を選び、決定ボタンを押す**

4 **▼ボタンを押し、◀/▶ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選ぶ**

「スピーカー環境の設定」（☞●●ページ）で、「No（ノー）」または「None（ナン）」以外を選択したスピーカーのそれぞれに対して設定できます。

5 **▲/▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ボタンで調整する**

SW ： 25Hz、40Hz、63Hz、100Hz、160Hz の 周波数を－6dB～＋6dBの範囲で調整できます。

その他のスピーカー ： 63Hz、250Hz、1000Hz、4000Hz、16000Hzの周波数を－6dB～＋6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

63Hzなど、低い周波数は低音域、16000Hzなどの高い周波数は高音域を表します。

6 **▼ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選び、◀/▶ボタンで「スピーカー」を選ぶ**

手順*6*,*7*をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7 **設定ボタンを押す**

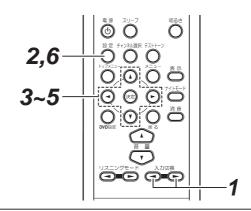
設定が終了します。

！ヒント

1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

ご注意

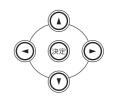
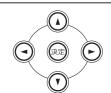
● Direct（ダイレクト）のリスニングモードのときは、効果がありません。入力ソースやリスニングモードによっては、働かないことがあります。

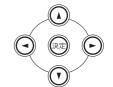
ソースの設定をする

1 設定ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンを押して「2.Speaker Setup」を選び、決定ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押して「4.Source Setup」を選び、決定ボタンを押す

設定の表示が出ます。

4 ▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

5 ▲/▲ボタンで調整する

Name Editを選んだときは、▲/▼ボタンで文字を選び決定ボタンを押す操作をくり返します。（最大10文字まで入力することができます。）

6 設定ボタンを押す

設定が終了します。

機器間の音量差を減らす（IntelliVolume）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この表示を出したまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。

・－12dB～＋12dBの範囲の調整できます。

映像と音声の再生にズレがあるとき（A/V Sync）

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0～100ms（ミリセカンド：千分の1秒）の範囲を10msステップで、音声の遅延を調整することができます。

再生される映像を見ながら調整します。

0～100msの範囲を10msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

ご注意

● この機能は、リスニングモードを「Direct」にしているときのアナログ信号には働きません。

圧縮信号の音質を良くする（Music Optimizer）

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。

Off　：Music Optimizer機能をオフにします。
On　：Music Optimizer機能をオンにします。

ご注意

● この機能は、48kHz以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Direct」のときは、効果がありません。

入力ソースに名前をつけるには（Name Edit）

DVDやVCR/DVRなどの各入力に最大10文字の名前をつけて表示させることができます。

次の文字を使用できます。

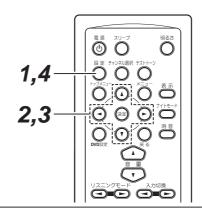
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
－ . ’ ( ) ＋ ＊ ＝ / , : ; ! ? _ ␣（空白）

▲/▼ボタン：入力する文字を選びます。
決定ボタン　：選んだ文字を決定します。
◀/▶ボタン：一度決定した後、修正したいときに文字を選びます。
消音ボタン　：一度決定した文字を取り消したいときに押します。

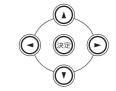
・一度つけた名前を修正するときも同じ手順で行います。文字を選んで決定ボタンを押すと、新しい文字が上書きされます。
・元の入力名に戻したいときは、文字をすべて消音ボタンで消すか、空白で上書きしてください。

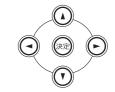
（つづく）

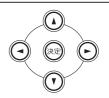
便利な設定に変更する（つづき）

ボリューム設定をする

1 **設定ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンを押して「5. Volume Setup」を選び、決定ボタンを押す**

設定の表示が出ます。

5.Volume Setup

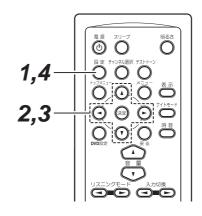
3 **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する**

4 **設定ボタンを押す**

設定が終了します。

Max Volume（最大音量）

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。●●〜●●の範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off」を選びます。

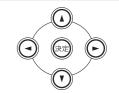
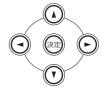
Power On Volume（パワーオン時音量）

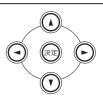
本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
Min・1・2…79・Maxの範囲内で設定できます。
ただし、Max Volumeを設定している場合は、その値までしか設定できません。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

HDMI設定をする

1 **設定ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンを押して「6.HDMI Setup」を選び、決定ボタンを押す**

設定の表示が出ます。

```
6.HDMI Setup
```

3 **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する**

4 **設定ボタンを押す**

設定が終了します。

Audio TV Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。

入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。

Off ： 出力しません。（お買い上げ時の設定）

On ： 出力します。

（つづく）

便利な設定に変更する（つづき）

ご注意

- Audio TV Outの設定が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV Controlの設定が「Enable」の場合は、「Auto」になります。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「On」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- この設定を「On」にしているとき、またはTV Controlの設定を「Enable」にしているときにテレビを聞いていると、本機の音量を上げると本機に接続しているスピーカーから音が出る場合があります。本機に接続しているスピーカーの音を止めるには、設定を変更するか、テレビの設定を変更、または本機の音量を下げてください。
- この設定を「On」にしているとき、Power Controlの設定を「Enable」にしていると、本機がオン/スタンバイ状態にかかわらずHDMI入力端子から入力される音声/映像信号は、HDMI出力端子に接続しているテレビや他の機器に出力されます。

Lip Sync

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

Disable ：自動では補正しません。
Enable ：自動的に補正します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMIリップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V Syncメニューで確認することができます。(☞●●ページ)

x.v. Color

x.v.Color対応のソースやモニターをHDMI接続したときに「Enable」に設定すると、色の表現力が向上します。

Disable ：x.v.Colorを使用しません。
Enable ：x.v.Colorを使用します。

ご注意

- 「Enable」にして色がおかしくなる場合は、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

Control

本機とHDMI接続したCEC規格対応機器やRIHD*対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

Disable ：RIHD Controlを使用しません。
Enable ：RIHD Controlを使用します。

ご注意

- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「Disable」に設定してください。
- 「Enable」に設定して、おかしな動作をする場合は「Disable」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

＊RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

■ Power Control

この設定は、HDMI Power Control機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。

また、上記の「Control」の設定が「Enable」の場合に変更できます。HDMIで接続された RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「Enable」に設定してください。ただし、接続機器が対応していない場合や接続機器の設定の状態によっては連動しない場合があります。

Disable ：Power Controlを使用しません。

Enable ：Power Controlを使用します。

- ご注意
- 「Enable」に設定しているときは、本機の待機電力が増えます。
- 「Enable」に設定しているときは、本機をスタンバイ状態にするとレディモードになり、スタンバイインジケーターが点灯します。
- 「Enable」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号はHDMI出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力されます。Audio TV Outの設定が「On」の場合は、HDMI音声信号もHDMI出力端子から出力されます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ TV Control

この設定は、ControlとPower Controlの両方の設定が「Enable」の場合に変更できます。

HDMI接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「Enable」にします。

Disable ：TV Controlを使用しません。

Enable ：TV Controlを使用します。

ご注意

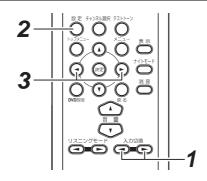
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- Control、Power Control、TV Controlの設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- Audio TV Outを「On」に設定した場合、またはTV Controlを「Enable」に設定し、テレビから音声を出す場合、本機のボリュームを操作すると、本機につながれたスピーカーから音が出るようになります。本機の音を消したいときは、もう一度セットアップ操作やテレビの操作をやり直すか、ボリュームを最小にしてください。

（つづく）

便利な設定に変更する（つづき）

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません。（☞●●ページ）
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

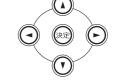
1 **リモコンの入力切換◀ / ▶ボタンで設定する機器を選ぶ**

2 **設定ボタンを約３秒間押し続ける**

現在のデジタル入力モード「Auto（オート）」が表示されます。表示の後ろの（　）は入力端子を表します。

6.HDMI Setup

3 **「Auto（オート）」表示中（約３秒間）に◀ / ▶ボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを選ぶ**

押すたびに、下記のように表示が切り換わります。

→ Auto ⟷ PCM ⟷ DTS ←

Auto（オート）（お買い上げ時の設定）：

デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：

AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。2チャンネルのPCMだけが再生できます。

DTS：

AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD以外のDTS音声を再生できます。

ご注意

- DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

こんなときには

お手入れのしかた

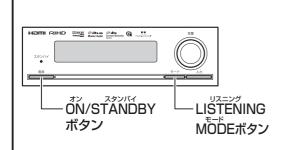
- ●柔らかい布で汚れを軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ●ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。また、キャビネットに殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。

故障かな？と思ったとき

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他の機器に原因がある場合もありますので、他機器の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

■ 修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときに、本機のマイコンをリセットすることで、トラブルが解消されることがあります。修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

マイコンのリセットについて

登録したレベル設定などをすべてお買い上げ時の設定に戻したいときは、以下の手順で本機のマイコンをリセットできます。

電源の入った状態で本体のLISTENING MODEボタンを押しながら、ON/STANDBYボタンを押す

表示部に「Clear」と表示され、本機の設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音　声

音声が出ない

- HDMI入力端子の設定や音声入力端子の設定を確認してください。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。
- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないか、本機背面の端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。 （●●、●●）
- スピーカーコードの⊕、⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードのビニール部分がスピーカ

こんなときには（つづき）

一端子にはさまっていないか確認してください。 （）

- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。 （●●）
- 接続した再生機器側で出力設定を確認してください。
- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。 （●●）

エラーメッセージが出る

- 操作中、表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。

Not available ：その機能は使えないということを意味します。たとえば、ドルビーデジタル以外の入力信号のためナイトモード機能が設定できないときなどに表示されます。

Muting On ：ミューティング（消音）機能がONになっているため設定できません。

DTS、PCMのインジケーターが点滅している

- デジタル入力モードを固定している場合、その固定されたフォーマット以外の信号が入力されています。設定を確認し、デジタル入力モードを「Auto」にしてください。 （●●）

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない／サブウーファーから音が出ない

- リスニングモードによっては、音声の出力されないスピーカーがあります。他のリスニングモードを選んでください。
- 再生するソースによっては、ドルビープロロジックⅡのリスニングモードは音が出にくい場合があります。
- 5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的ですので、他のリスニングモードをお選びください。
- パソコンやゲーム機、DVDプレーヤーなどの接続した再生機器側で出力設定を確認してください。

音が良くない

- スピーカーコードの⊕／⊖が正しく接続されているかご確認ください。 （）
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有／無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。 （●●、●●）
- ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。 （●●）

レコードプレーヤーの音が小さい

- レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。
- 内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。

レコードプレーヤーが再生できない

- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。

〈音質について〉

電源投入後10〜30分程度経過した方が音質は安定します。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか？

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。（●●）

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
- スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
- コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカーの「有／無とクロスオーバー周波数」の設定を手動で行ってください。（●●）

テスト音は出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。（●●）

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックⅡまたはドルビープロロジックⅡxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo（ステレオ）」、「Mono（モノ）」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力ソースにサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない（Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。
- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（●●）

（つづく）

こんなときには(つづき)

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。 (●●)

音量調整が80(Max)以下で終わる

- 設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

ナイトモード機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDのいずれかになっているか確認してください。 (●●)

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI入力音声が頭切れする

- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

リ モ コ ン

リモコンが働かない

- 電池の極性(⊕、⊖)が、表示通り正しく入っているか確認してください。 (●●)
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。
- (種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用はさけてください) (●●)
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか?リモコンと本体の間に障害物がありませんか? (●●)
- リモコン受光部に強い光(インバータ蛍光灯や直射日光)が当たっていませんか? (●●)

オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックの操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。(RIケーブルだけでは正しく連動しません) (●●)
- リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。 (●●)
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。 (●●)

他機器との接続

接続した機器の音が出ない

- 入力切り換えを確認してください。
- オーディオ用光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、別売のフォノイコライザーを中継してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Noise Error!」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。 (●●)

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Input (Mux)」で主音声／副音声を選択します。 (●●)

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。 (●●)

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については保証対象になりません。

大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

仕様

項目			仕様
商品名			シアターラックシステム
形名			TY-TVR1000HD
実用最大出力			210W
	フロント(L/R)		30W+30W(1kHz,6Ω,JEITA)
	センター		60W(1kHz,6Ω,JEITA)
	サブウーハー		60W(100Hz,3Ω,JEITA)
	サラウンド(スピーカーは別売)		30W+30W(1kHz,6Ω,JEITA)
端子			
	HDMI入力端子		2
	HDMI出力端子		1
	デジタル入力	光デジタル入力	2
		同軸(COAXIAL)	1
	アナログ音声入力		2
	アナログ音声出力		1
スピーカー			
	フロント		100mmコーン型フルレンジ×2
	センター		80mmコーン型フルレンジ×1
	サブウーハー		120mmバスレフ型ウーハー×2
サラウンド音声フォーマット			
	Dolby Digital		●
	Dolby Digital Plus		●
	Dolby True D		●
	DTS		●
	DTS Express Audio		●
	DTS HD High Resolution Audio		●
	AAC		●
	PCM		●
	DSD		●
	Theater-Dimensional		●
電源			AC100V 50/60Hz
消費電力			110W
	電源スタンバイ時		約0.2W
寸法			幅1000×奥行430×高さ450mm
質量			
耐荷重			
	天板		60kg
	棚板		20kg
	底板		20kg
付属品			電源コード リモコン リモコン用乾電池 HDMIケーブル(約1.5m) 光デジタルケーブル(約1.5m) ステレオピンコード キャスター座　3個

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

用語解説

音声フォーマット

サラウンド(Surround)

ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル(Dolby Digital)

ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーEX(Dolby EX)

映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション(左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド)に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックⅡ(Dolby Pro Logic Ⅱ)

ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックⅡx(Dolby Pro Logic Ⅱx)

ドルビープロロジックⅡをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス(Dolby Digital Plus)

ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD(Dolby TrueHD)

ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

DSD(Direct Stream Digital)

スーパーオーディオCDに採用された方式です。100kHzをカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内120dB以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTSデジタルサラウンド(DTS Digital Surround)

米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド(DTS-ES Extended Surround)

従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド(CS)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES ディスクリート(DTS-ES Discrete)

5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

(つづく)

仕様(つづき)

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)

映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS Express

DTS社が開発した最大5.1ch、48kHzのロービットレート音声です。HD DVDのサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24

DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HDハイレゾリューションオーディオ (DTS-HD High Resolution Audio)

DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

DTS-HDマスターオーディオ (DTS-HD Master Audio)

DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク(ブルーレイ、HD DVD)に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

Neo:6

DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC

AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット(Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。

従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ

一般的な再生機器に装備されているL/R(白/赤)音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル

デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。

ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光(OPTICAL)デジタル

DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。

アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。音質は同軸デジタルと同等です。

同軸(COAXIAL)デジタル

DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で同軸コードを用いて接続します。

アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数

アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。44.1 k Hzは1秒間に44100回、96 k Hzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ

信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE(Low Frequency Effect)

ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド

視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch(チャンネル)、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド

視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch(7チャンネル)、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

保証とアフターサービス 必ずお読みください

修理・お取り扱い・お手入れについてご不明な点は

お買い上げの販売店へご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、下記の窓口へ

東芝エルイートレーディングサポートセンター

フリーダイヤル **0120-28-0488**
受付時間：365日 9:00〜20:00
携帯電話・PHSなど
ナビダイヤル **0570-01-0488（通話料：有料）**
FAX
03-3258-0470（通信料：有料）

- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

保証書（一体）

- 保証書は、この取扱説明書の●●ページに記載されています。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げの日から１年間です。

補修用性能部品の保有期間

- シアターラックシステムの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは 出張修理

●ページに従って調べていただき、なお異常があるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 本機は国内専用です。国外での使用に対するサービスは対応できかねますので、ご了承ください。

□保証期間中は

保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。なお、修理に際しましては、保証書をご提示ください。

□保証期間が過ぎているときは

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる場合は、ご希望によって有料で修理させていただきます。

□修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代などで構成されています。	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する料金です。

便利メモ	お買い上げ日	年　月　日
	お買い上げ店名	電話（　　　）

長年ご使用の機器の点検をぜひ！

このような症状はありませんか。

○ 電源コードが傷んでいる
○ 煙が出る
○ 変な臭いがする
○ その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。

東芝シアターラックシステム保証書

出張修理

形名	TY-TVR1000HD	
★お客様 お名前	ふりがな 様	
ご住所	〒□□□-□□□□	
電話	市外 市内 番号 呼	
保証期間 本体	1年	★お買い上げ日 年 月 日から
★ご販売店	住所・店名 電話	

東芝エルイートレーディング株式会社
〒101−0021　東京都千代田区外神田2−2−15（東芝昌平坂ビル）

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書をご覧ください。

本書は、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの記載内容にそった正しいご使用のもとで、保証期間中に故障した場合に、本書記載内容にそって無料修理をさせていただくことをお約束するものです。保証期間中に故障が発生したときは、本書と商品をご持参のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
★印欄に記入がないときは無効です。本書をお受け取りの際は必ず記入をご確認ください。また、本書は再発行しませんので紛失しないように大切に保管してください。

1. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
（イ）誤ったご使用や不当な修理･改造で生じた故障、損傷。
（ロ）お買い上げ後の落下や輸送などで生じた故障、損傷。
（ハ）火災、天災地変（地震、風水害、落雷など）、塩害、ガス害、異常電圧で生じた故障、損傷。
（ニ）本書のご提示がない場合。
（ホ）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句が書きかえられた場合。
（ヘ）車両・船舶などに、備品として使用した場合に生ずる故障および損傷。
（ト）一般家庭用以外（たとえば業務用など）に使用された場合の故障、損傷。
2. 出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。
3. 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
5. ご転居またはご贈答品などで、お買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、東芝エルイートレーディングサポートセンターへご相談ください。

修理メモ 修理年月日	修理内容	担当
年 月 日		
年 月 日		

・保証書にご記入いただいたお客様の住所・氏名などの個人情報は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。
・修理のために、当社から修理委託している保守会社などに必要なお客様の個人情報を預託する場合がございますが、個人情報保護法および当社と同様の個人情報保護規程を遵守させますので、ご了承ください。

東芝エルイートレーディング株式会社
〒101−0021　東京都千代田区外神田2−2−15(東芝昌平坂ビル)